

〈東文研・ASNET共催セミナー〉

中国唐宋時代の外国僧侶と護国仏教

Foreign Buddhist monks and state-protect
Buddhism in Tang and Song China



唐代から宋代にかけて、中国仏教は終始朝廷と一定の関係を維持した。その中、国家守護を目標とした護国仏教は特に代表的だった。そして、外国人僧侶が護国仏教に果たした役割も注目される。本報告は外国人僧侶の中国での活動を考察し、外国出身の僧侶たちが中国唐宋時代の護国仏教での重要性と意義を検討したい。

錢弘俶八万四千塔と金銅三鈷杵（奈良国立博物館所蔵）

- ◆ 日 時： 2016 年 7 月 28 日（木） 17:00-18:00
- ◆ 報告者： 郭珮君氏（東京大学東洋文化研究所・訪問研究員）
- ◆ コメント： 塚本麿充氏（東京大学東洋文化研究所・准教授）
- ◆ 会 場： 東京大学 本郷キャンパス内 東洋文化研究所 1F ロビー

※ 報告は日本語で行われます。



東京大学
日本・アジアに関する教育研究ネットワーク
Network for Education and Research on Asia

